

資料名	概要
	<p>胃がん 6例 胃潰瘍 4例 直腸がん 3例 胆石症 2例 計 24例</p> <p>E(exposure, 曝露) フィブリノーゲン-BBank を投与 (ただし、出血の起こった7例のうち2例は他剤と併用)</p> <p>C(comparison, 比較) なし</p> <p>O(outcome, アウトカム)</p> <ul style="list-style-type: none"> 手術時または術後に出血の起こった症例 → 「血友病の症例を除き出血が停止した」 低フィブリノーゲン血症予防の症例 → 「いずれも出血は起こらなかった」 <p>副作用の記述 「全例(24例)に於いて何ら特記すべき副作用は見られなかった」</p> <p>備考</p> <ul style="list-style-type: none"> なお、資料「フィブリノーゲン-BBank使用後における観察」³⁰(村上文夫)では、上記村上報告の臨床実験のうち、出血後にフィブリノーゲン製剤を投与された7例全例において輸血が併用されていたこと、また肝炎発生が1例存在していたが、その原因は併用された輸血によるものと判断されていたことが記載されている。
5) フィブリノーゲン-BBankの使用経験 (徳沢邦輔) ³¹	<p>P(patient, 患者) 手術侵襲に関連して発生したフィブリノーゲン減少症 22例 ※フィブリノーゲン濃度の記載なし</p> <p>前立腺癌 1例 胃癌 4例 バンチ氏症候群 2例 肺癌 4例 脾剝出 2例 膵剝出 2例 肺切除 2例 直腸癌 3例 紫斑病 1例 前立腺剝出 1例</p> <p>E(exposure, 曝露) フィブリノーゲン-BBank を使用</p> <p>C(comparison, 比較) なし</p> <p>O(outcome, アウトカム) 所期の目的を達した</p>

³⁰ 村上文夫「フィブリノーゲン-BBank 使用後における観察」1962(昭37)年頃(東京甲 B29)

³¹ 徳沢邦輔「フィブリノーゲン-BBank の使用経験」1962(S37)年頃(東京甲 A195)